

第2回 香川の自転車利用を考える懇談会 議事概要

日 時：平成19年 5月21日（月） 10:00～12:00

場 所：高松サンポート合同庁舎 高層棟13階 1306・1307会議室

出席者：四国旅客鉄道（株）	梅原 利之 会長
NPO法人自転車活用推進研究会	小林 成基 事務局長
香川県交通安全母の会	地藤 照子 顧問
香川大学 工学部	土井 健司 教授（座長）
（有）アイヴェーション	廣瀬 将人 代表取締役
高松中央商店街振興組合連合会	古川 康造 理事
香川県観光協会	松岡 勝哉 専務理事
香川県サイクリング協会	宮本 保弘 事務局長

議事概要：

（自転車NO1の決意表明に関する意見）

- ・ 自転車で日本一をめざすという決意を全国へ宣言すべき。
- ・ 方法論の前に、決意がいる。
- ・ 決意は、トップである市長の判断が必要である。宣言止まりにならない宣言をしたい。
- ・ 県民性は穏やかなのに、何故マナーが悪いのか？舗装率はNO1、自転車でも日本のモデル地区である。マナーの悪さも含めてすべて高松がNO1。
- ・ 高松には、不幸なところもあるが、良くなっていく要素が山ほどある。是非盛り上げて、本気でやりたい。やる気になればやれる。
- ・ 全国へPRするチャンス。やれるところから特化して、是非特徴づけたい。
- ・ 市民への決意を示すべき。この際、事故の減少など決意を目標数値として設定できるか。
- ・ 自転車宣言都市、これをもう一度提言して、全国へ発信してほしい。
- ・ 決意表明を実現するプロセスを事務局で考えて欲しい。次回は、具体的な取り組みについて議論いただく。

提言書について

（香川らしいコンセプトに関する意見）

- ・ 秋には自転車ワールドフェスタを開催する。（提言書の）「なぜ今自転車か？」には、『自転車は楽しい！』というのをに入れてほしい。
- ・ 香川らしさを出すためのひとつとしてネットワークがある。内陸と島、鉄道、バスなど他の交通機関と連携するなど、郊外から中心部へ如何にして自転車利用を増やしていくべきか。

（都市交通体系における自転車の位置づけに関する意見）

- ・ 自転車利用にちょうど良い2km圏に拠点を設置して（場所機能）、自転車で公共交通の不足を補う（結節機能）、この2つが香川県の目指すコンパクトなまちづくりでは。
- ・ 3年くらいでマスタープランをつくって、どこからやるのかを明確にすべき。
- ・ 東京での自転車利用の第1回懇談会を先週金曜日に開催した。日本は道が狭いという言い訳は通用しない。歩行者、車の位置づけをきちんと整理すべきである。どうやって、歩行者、自転

車を分けるか、方法論の問題だと考える。中央でも議論を進めたい。

(歩行者・自転車の安全快適な空間の確保に関する意見)

- ・ NPO自転車活用推進研究会では大規模なアンケート調査を行った。着目すべきは、3割くらいの方が事故経験を持っているのに対し、警察に届けたのは、そのうち5%程度しかないこと。警察への届出が17万強なので、報告されていない事故があまりにも多いことに驚いた。
- ・ 歩道も歩行者の少ない土日の郊外に限って自転車道にするなど、香川のローカルルールができないか。
- ・ 歩道と車道の縁石、路肩をフラットにするなど、ユーザーの立場に立ち、地域の実情に応じて道路空間を有効に使える工夫ができないだろうか。

(商店街(アーケード街)の自転車対策による魅力向上に関する意見)

- ・ 丸亀町商店街の自転車レーンにはランプがほしい。無謀な運転も減る。
- ・ 幹線道路の交差点の地下道は、高齢者には大変。商店街に高齢者が戻ってくる時代がやってくる。商店街の脇には良い道があるので、安全に走れる道としての整備に期待したい。
- ・ まずは法整備。自転車専用道の表記をつけるにしても、法規制があり、民間が勝手に整備できない。官民協働により何とか自転車専用道を整備していきたい。
- ・ 如何に市民に支持される空間をつくるかが課題。商店街での自転車問題はいつも賛成、反対に分かれる。その為判断がしにくい。歩行者と自転車をどううまく共存させるかが重要。
- ・ 丸亀町の地下駐輪は全国でも事例が少ない。3機もあるのにびっくりした。5時間も無料というのは異例。

(路上駐輪の対策に関する意見)

- ・ 自転車をコンパクトに停めることも重要。自転車は23時間45分停まっているもの。停まってもかっこいいのが良い。
- ・ 歩道、車道の一部に駐輪場をつくり、コインパーキングにするなど民間に委託して自由に使えるような発想があってもいい。
- ・ 自転車の問題は止められないこと。また、盗まれないということが重要。海外では自転車を路上にロックできる施設がある。韓国、中国、台湾、ハワイでは、ガードレールにロックできる。このようにシステムは出来ているので、日本でもできるのでは。
- ・ 高松では、せっかく自転車で観光しようとしても、自転車をロックできる場所がない。道路管理者、地域住民、警察と一緒に取り組められればできるのでは。
- ・ 自分の自転車だという愛着がない。「My自転車」があれば、放置自転車は絶対しない。ハード面だけでなく、自転車ワールドフェスタなどで「My自転車」コンクールをどんどん実施するなどして、自転車に愛着を感じるための運動をやっていったらどうか。
- ・ 自転車放置の最大の問題は自転車が消耗品になっていること。先進国の中で、安全性に問題のある安い自転車を大量輸入しているのは日本だけ。これは規制もできるのでは。

(ルール・マナーの徹底に関する意見)

- ・ 香川の道路空間はすばらしい。ただ、人が道路を使う上でのマナーの悪さについての因果関係がある。
- ・ マナー・ルールの徹底を前面に出していくべき。
- ・ 自転車の乗り方は、乗り始めたときから教えるべき。ニュージーランドのクライストチャーチ市では、6才児の75%に交通ルール教育を行うことが条例で定められている。アメリカは1991年に自転車歩行者行政を一元化する連邦法を制定し、幼少時の教育を始めて8年後には自転車事故の死者を半減させている。大人のマナーを考えるのは大変だが、まず、小学校にはいった段階で徹底的にやるべき。市長の宣言によって教育グループとも連携できる。
- ・ 自転車は小学4年生からしか乗れないことになっている。自転車の乗り方教室を1年から3年

生まで行っているが、安全教育をいつから始めるべきか、教育委員会が見直しをかけていく必要がある。

- ・ 郊外で起きた事故は学校の先生の責任ではなく、親の責任である。すぐに学校に責任を追及する、ゆがんだ意識を完全に变える必要がある。
- ・ 事故の多さにとってもびっくりした。自転車を売るときに小売店が、乗り方だけではなく、自転車の安全講習を義務づけるとか、お店側でも徹底して行うべき。
- ・ 講習会制度を設けて、自転車に乗る人は必ず講習を受けてステッカーを貼るようにしなければならないといった取り組みも考えられる。
- ・ 商店街アーケードの標識は上の端にある。これではわからない。今、予算がないのは当たり前。できるところから改善していくべき。
- ・ 交通標識などの案内は、日本は看板などで行っているが、ヨーロッパは路面に図示しているケースが多い。日本の道路でも路面に矢印を描いている（右折禁止など）場合は非常にスムーズに動ける。また、看板をたてるより、地面に書いた方が安い。
- ・ 大阪の御堂筋では、2 mの幅で自転車専用レーンを整備した。2 mでもマナー次第で自転車レーンの設置が可能。
- ・ 自転車が車両だという認識、歩行者の商店街の歩き方に関する認識、意識の問題である。
- ・ 県民の意識をかえて、日本一マナーの良いまちを目指し、香川県のマナー・ルールがよくなったという成果を県外の人に感じてもらい、環境に良いまち、上手に使っているまちだとお客さんに呼びかけたい。今の状況では県外出身者としてはお勧めができない。
- ・ 9月には無灯火調査を実施する予定。マスコミを活用して、県民の意識を変えたい。

（さらなる自転車利用の促進に関する意見）

- ・ サイクルトレインは、本気でやりたい。トータルのシステムとして取り組んでいきたい。
- ・ まんのう公園のサイクリングイベントの際に自転車を電車で乗せて移動できた。公共交通との連携が香川独自の交通としてできないか。県内では可能ではないか。
- ・ 街角を漫遊調で自転車で回れるサイクリングマップも作成中。

（重点対策地区の設定に関する意見）

- ・ ハードはプライオリティつけて、まず高松市をモデルとしてきちんとやれば全県に広がる。
- ・ 重点対策地区として、高松市の中でも海浜公園都市構想エリアにしてはどうか。重点対策地区をコリドーの概念で提示。この構想は先日、知事にも提言したところ。
- ・ バスレーンを確保し、公共交通機関に最高のプライオリティをもたせれば、相当変わるのではないか。
- ・ 朝の時間のない中、道路のどこでも自転車が通る。交通流動を再点検し、通勤・通学道路として安全性を確保できるルート、優先的に整備する道路を見直して、絵を描いて欲しい。

（その他の意見）

- ・ これまで、自転車の問題は高齢者の問題も含めて、全て個別に行われてきた。高齢化の進展により、ようやく自転車について動きが出てきた。
- ・ 観光のシンボルである屋島が衰退していることが香川県に着任してまず最初に衝撃を受けた。
- ・ 屋島はなぜ、車しかいけないのか。お金を払っても良いので自転車で登れるようにして欲しい。観光客、ユーザー側に立って考えてもらいたい。
- ・ 取り組みの実現には、なかなかユーザーの理解を得るのは難しい。ワークショップや社会実験など、市民参加により、現場で知恵を出し合っていくべき。
- ・ 特に、取り締まりの強化、教育をやってほしい。官民で、横の連絡会議をやるべき。そうすれば、スピード感がでてくる。
- ・ 自転車に愛着を持たせるデザイン、商店の前に停めさせないデザイン、自転車を停めるときのデザインなど、デザインが交通社会を変えたいということもひとつのポイント。